



ゆりのき



No.25 2026年2月10日発行



JWU 子育てサイエンス・ラボが発行するニュースレター「ゆりのき」は子育てにまつわる様々なトピックやお気軽に参加できる「子育てサイエンス・カフェ」のご案内を掲載しています。以前の「ゆりのき」も公式 HP で閲覧できます。

TOPICS

- 教員インタビューリレー ● 第25回子育てサイエンス・カフェ開催レポート
- 第26回子育てサイエンス・カフェのお知らせ ● クリスマスイベント開催レポート ● お知らせ

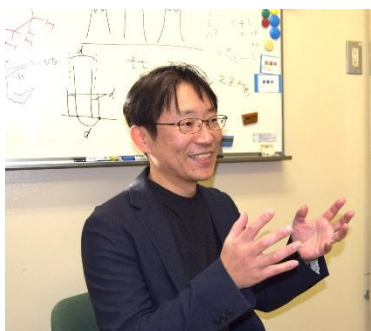
Interview



教員インタビュー リレー

Vol. 5

様々な教員の研究内容や、JWU 子育てサイエンス・ラボでの活動をご紹介します。



理学部
化学生命科学科
准教授 澁谷 正俊

医薬品などの機能性有機分子を、安全に廃棄物を極力出さずにつくる環境にやさしい有機合成を実現するための触媒反応の開発を行っている。

Q.1 研究や専門について教えてください。

くすりは、目には見えませんがそれぞれ“カタチ”を持っています。専門用語では、分子構造と言います。良いカタチであれば、くすりとしてよい効果が得られます。生薬のように植物などから抽出して得られるものもありますが、多くの薬は天然から得られるものからカタチを変えることで作られます。私は、そのカタチを変える方法を研究しています。

Q.2 研究を始めたきっかけはなんですか。

くすりなどを作るために分子のカタチの変え方や作り方を学ぶ「有機化学」という学問があります。私は薬学部出身ですが、大学で有機化学を教えてくれた先生方が時々ご自身の研究の話を踏まえながらとても楽しそうに語ってくれるのが印象的でした。分子のカタチを変えると新しいくすりや材料になるような物質を生み出せる無限の可能性を持っていることも魅力に感じました。それで、大学4年生の時に有機化学の研究室を選んだのがきっかけです。

Q.3 大学の教育活動で心がけていることを教えてください。

私の大学の時の恩師の先生方が教えてくださったような有機化学の魅力を伝えたいと思っています。

Q.4 ご自身の研究が、実際の子育てや教育、社会の中でどのように活かされることを期待しますか。

私の研究は、子育てに生かせるかと言われるとなかなか難しいのですが、子供たちが大人になったときにより良い自然環境を残すことが大切だと思っています。健康で豊かな生活を送るためには、化学製品やくすりは欠かせません。しかし、もともとは分子のカタチを変えるには、健康被害や環境汚染につながるような毒性が高く危険な化学薬品が必要でした。持続可能な社会を実現するためには、健康や環境を侵すことのない安全で環境にやさしい方法で分子のカタチを変える技術が必要です。そのような技術をより多く開発するために研究を行っています。私たちの研究から生み出した技術が、今はまだ治療の難しい病気を治すためのくすりや生活を豊かにする化学製品の開発につながることを期待しています。

Q.5 「子育て」に関わる方々へメッセージをお願いします。

子どもが小学生になった際、地域の学童保育所に通わせることになりました。その学童保育所は父母が運営しており、不慣れながらも父母代表として運営に関わることになりました。さらに、新しい学童保育所の立ち上げにも参加し、地域の子どもたちや親が安心できる環境づくりに携わりました。この経験を通じて、さまざまな職業や価値観を持つ父母の方々と関わり、自身の視野を広げることができました。子育てでは時に不慣れなことに向き合う必要がありますが、振り返ると良い経験になっていることも多いので、その場を前向きに楽しむ姿勢が重要なのではないかと思います。



次回は食科学部食科学科 北澤 裕明准教授をご紹介します。

大切にしたい家族の会話



フィンランド発

「対話実践」に学ぶ、コミュニケーションのヒント



今回ご紹介したのは、フィンランドのケロプダス病院で考案された、統合失調症の治療システム「オープンダイアログ」における対話実践でした。このシステムは大きな効果がみられたために世界各地で注目されるようになり、統合失調症以外にも適用が試みられてきました。

日本女子大学社会連携教育センター
THE JOU KAIKEN INSTITUTE FOR SOCIAL COLLABORATION

オンライン講座 参加無料 第25回 子育てサイエンス・カフェ

親も子どもも安心できる、心の距離を大切にしたいコミュニケーションとは？

大切にしたい家族の会話

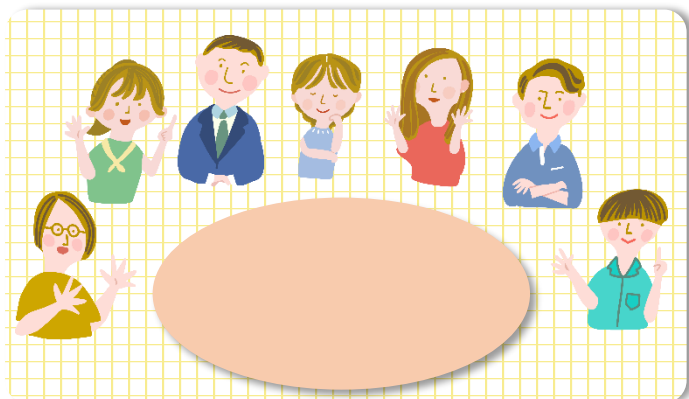
フィンランド発
「対話実践」に学ぶ、コミュニケーションのヒント

家族は身近な存在であり、大切に思う人は多いと思います。親も子どもも安心できる子育てのためには、親子関係だけでなく、家族全員の関係や、子どもを取り巻く大人たち同士の関係も、安心できるものでありたいですね。でも、大切に思うからこそ、時には気になることや、心配になることがあるのではないのでしょうか。フィンランド発の「対話実践」を例に、互いの距離感を尊重しながら、思いを受け取り、届けるためのヒントとなるような、一つの工夫についてご紹介し、一緒に考えたいと思います。

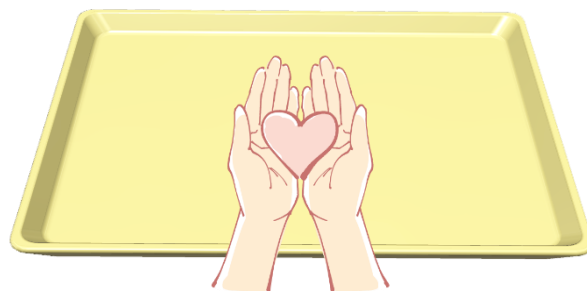
講師 日本女子大学人間社会学部心理学科 教授 青木 みのり

臨床心理学の中で、家族、学校など、人と人との相互作用に関する実践と研究を行う。研究においては、家族や学校などの集団内でのコミュニケーションに関心を寄せ、自身のゼミでも、ゼミ生相互の関わりを大切に、率直に意見を交わらせる生き生きとしたゼミを目指して指導を行っている。

オープンダイアログの概念自体は家族療法の流れを汲みつつ、バフチンの思想や社会構成主義とも関連する複雑で広大なものなのですが、今回は、日常の対話実践のヒントになりそうな考え方として、私が特にお伝えしたいと思った「相互尊重」「全員の声が平等に聞かれること」「自分とは異なる存在として他者を認めること」「異なる意見が共存できる場が保証され、同調しなくてよいこと」「他者と語りあいながら自分自身とも向き合い会話すること」に絞ってお話しました。

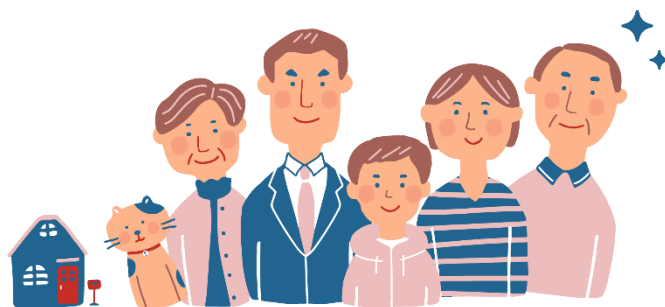


そして、お互いが言葉を柔らかく届けるために「相手との間に空想上のお盆があって、その上に言葉を載せるイメージで話すこと」や、話し手の言葉にしっかり耳を傾けるために「『話す』と『聴く』を分けること」など、ユニークな工夫をご紹介しました。また、「話したくないときは話さなくてよい」と保証することも、安心できる対話の場であるために大切なこととお伝えしました。後半部では実践の様子をイメージしやすいよう、動画を見ていただきました。



大切なことは「全員にとって安全で楽しい場を持てること」で、形式にはこだわらなくてよいのかもしれませんが。それを踏まえていれば、個々のご家庭やコミュニティに合うような、様々な工夫の余地があると思いました。きっかけの一つになれば幸いです。

(人間社会学部心理学科 教授 青木 みのり)



次回の子育てサイエンス・カフェは、3月14日(土)に『参加者ご来校型』で開催します。
詳細は次ページにてご確認ください。お申込みをお待ちしています！



次回の子育てサイエンス・カフェは！



来校型イベント
参加無料

第2回 文京避難所大学

第26回 子育てサイエンス・カフェ

みんなの 避難所教室

『妊産婦・乳児救護所』の現場を見て、
いざというときの準備を始めよう



文京区では、妊婦と0才の赤ちゃんのいる産婦の方々が避難所では暮らしにくいことを考え、日本で初めて『妊産婦・乳児救護所』を作りました。
その1つである日本女子大学の妊産婦・乳児救護所の実際の現場・準備状況をご案内します。
物資はどのようなものか、寝るときはどうなるのかなど、各ご家庭での準備も念頭に置きながら、一緒に現物を見ながら考えていきましょう。防災士の方々も、どのような準備や運営体制が必要なのか、現場でともに考えてみませんか。

プログラム

■ 妊産婦・乳児救護所について

日本女子大学 建築デザイン学部建築デザイン学科
教授 平田 京子

■ 文京区の防災への取り組み

文京区 防災危機管理課

■ 妊産婦・乳児救護所を見てみよう

実際に救護所を開設した場合の生活スペースや
備蓄物資などを見てみましょう。

■ グループトーク

生まれの近い赤ちゃんを子育て中の保護者や、地域の
防災士を務める方など、本学教員も交えて情報交換を
しましょう！

2026年

3/14(土) 10:00~12:00

日本女子大学目白キャンパス 新泉山館 1階

東京都文京区目白台 2-8-1

- ・駐車場・駐輪場はございません。公共の交通機関でお越しください。
- ・ベビーカー置き場のご用意がございます。
- ・おむつ替えや休憩のスペースもございます。お気軽にご参加ください。

📍 アクセス



申込み

※定員(30名)
に達し次第締切



<https://forms.office.com/r/Kps>

定員管理の都合上、お申込み受付から
1週間以内に参加可否をメールでご連絡
いたします。メールをご確認いただ
けますようお願いいたします。結果に
関わるお問合せへは回答いたしかね
ますのでご了承ください。

対象 定員 **30**名(赤ちゃんは定員に含みません。)

- 文京区在住の0~2歳の赤ちゃんと保護者の方、プレママ・パパの方
- 文京区在住の防災士資格をお持ちの方、防災リーダーの方
- 文京区在住、在勤、在学の防災に関心のある方
- JWU 子育てサイエンス・ラボ 子育て情報会員の方
- その他地域にお住まいの方

- ・定員に達し次第、締め切りとさせていただきます。お申込み受付から1週間以内に参加可否をメールでご連絡いたします。
- ・会場の都合により、赤ちゃんと一緒に参加される場合は、保護者1名につき赤ちゃん1名とさせていただきます。
(ごきょうだいを連れてのご参加はお控えください)
- ・保育士等はありませんので、お子さまは必ず保護者の方が責任をもって見守りくださいますようお願いいたします。



12/6（土）「あつまれ!!さんた村～一緒に作るクリスマス～」を開催しました！

本イベントは、人間社会学部 社会福祉学科 地域福祉ゼミ（黒岩亮子教授）と社会連携教育センターが主催する毎年恒例のイベントです。地域の方に交

流の場を提供し、楽しい時間を過ごしていただくため、学生たちが一生懸命準備をしました。

プログラム

- ・松ぼっくり工作
- ・クリスマスカードづくり
- ・カーリングゲーム
- ・ポッチャ大会 など



当日は多くのご家族にお集まりいただき、ゲームや工作、クリスマスツリーの飾りつけなど盛りだくさんのプログラムを楽しんでいただくことができました！学生たちにとっても「参加者が主体的に楽しめる場づくり」の実践的な学びの場となりました。



日本女子大学
JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY

心理相談室のご案内



日本女子大学心理相談室では、地域の皆様の心の相談をお受けしています。

たとえば…

- 子どもの発達や成長が気になる
- 不登校、集団になじめない
- 子育ての悩み
- 対人関係、親子関係
- 気持ちを整理したい
- 自分の性格、将来・生き方
- 自分を見つめたい など

相談は完全予約制です。お電話でお申込みください。

日本女子大学 心理相談室 **03-5810-1507**（直通）

受付：火・木・金曜 9時～17時／水曜 10時～18時

土曜 9時～18時（月曜・日曜・祝祭日は閉室）



日本女子大学 心理相談室

